

2023.09.28. 木曜礼拝「弱っている時、足蹴にされる」

エゼキエル 25,26 章

JD ファラグ牧師

一緒に祈りましょう。主よ、天のお父さま、私たちは今、あなたが必要です。私たちは皆、何かを経験しています、主よ。ああ、時には厳しいこともあります。ですから、私たちには励ましがが必要です。私たちには、あなたの御言葉にあるいのちが必要です。ですから主よ、今晚、エゼキエル書を掘り下げるとき、私たちと共にいてください。あなたが私たちのために用意してくださった御言葉です。J.D.牧師をあなたに感謝します。今晚、あなたが私たちに与えてくださるものを受け取るために、私たちが常に準備し、耳を傾けますように。主よ、あなたの御言葉に感謝します。今晚私たちにお語り下さい。イエスの御名によって、アーメン。アーメン、アーメン。こんばんは。ご着席ください。ようこそお越しくださいました。オンラインの皆さんも、参加下さり嬉しいです。参加したことで祝福されると信じます。始める前にいくつかあります。まず初めに、次の火曜日夜 7 時に、ここ礼拝堂で祈り会があります。是非お越しになって、一緒に祈ることができることを本当に願っています。教会として、共に祈る時間は、いつも祝福された豊かな時間です。また、マウイ使命の支援については、主の御心なら、日曜日に最新情報をお伝えする予定です。「私たちがまだここにいるなら」皆さん、良いですね♡ 素晴らしい。皆さん、よく分かっているね。今夜は、先週の木曜日の夜、特にここに来られていない、あるいは動画を観ておられない方のために、スティーブ・サントス牧師と奥さんのキムが来られていたことをお伝えします。ああ、なんとも強烈でしたが、その夜の動画は、私たちのソーシャルメディア・プラットフォームやウェブサイトでもご覧になれます。それを活用してください。

では今夜は、25 章と 26 章の 2 つの章です。エゼキエル書を一節ごとに読み進めていて...祈りましょう。お願いします。

お父様、感謝します。主よ、本当に、本当に、本当にありがとうございます。どうすればあなたに十分に感謝できるのでしょうか。神よ、あなたは本当に良いお方です。私たちに本当に良くしてください。憐れみ深く、思いやりがあられ、お優しく、ご親切で、長くご忍耐されています。主よ、あなたは私たちをととても愛して下さっています。主よ、今夜、これらの章が困難であろうと、あなたの愛は輝いています。それはあなたの御言葉だからです。主よ、あなただけがお出来になるように、木曜日の夜は、信者の体として共に過ごす私たちの時間だからです。私たちはこの時間を大切にします。世や仕事やすべてのストレスから切り離すことができる時間です。ただこの場所に来て、あなたに全集中します。あなたは私たちがを養い、私たちがを育て、私たちに働かれ、語ってください。主よ、今夜、私たちが共に過ごす時間の中で、あなたの御言葉の中で、あなたが何をなさろうとしているのか、私たちは大きな期待を持って楽しみにしています。私たちの時間を祝福してください。イエスの御名によって祈ります。アーメン、アーメン。

では、私たちの前にある 2 つの章は、「弱っている時、足蹴にされる」のはなぜかという、非常に興味深い問題を語っています。この格言はよくご存知ですね。神は預言者エゼキエルを通して語られます。先週の 24 章でお話したように、25 章からある種の角を曲がります。バビロンが捕囚の民を連れ去り、エルサレムを破壊し、神殿さえも破壊する 3 度目の包囲に関するユダへの預言の完成、完了のようなものです。つまり、これらの預言はすでに完了しました。そして今、神はエゼキエルに、イスラエルに対し、基本的にこのようなことをしていた近隣諸国への預言を始めさせられます。これから見るように、落ち込

んでいる時足蹴にされるのはなぜか、間違いなく言い訳ではなく、何らかの形できつと説明できる具体的な理由があります。今夜の教えを準備し、祈る中で、主が私に、足蹴にする者ではなく足蹴にされる者について、もっと話すように導いておられるのを実に感じました。しかしながら、足蹴にする者には、先に言っておきますと、神が最終決定をされます。言っておきます。それはともかく、私はこの2つの章で5つの理由を見つけました。皆さんはもっと見つけられるかもしれませんが、少なくとも、5つ以上です。繰り返しますが、言い訳ではなく、前述の、なぜ私たちが落ち込んでいる時足蹴にする者の攻撃を受ける側になることがあるのかの説明です。実は、皆さんもよくご存知の「箴言」、これは完璧な要約です。「箴言 24章 17節と 18節」

一箴言 24:17一

あなたの敵が倒れるとき、喜んではならない。彼がつまずくとき、心躍らせてはならない。

一箴言 24:18一

主がそれを見て心を痛め、彼への怒りをやめられるといけない。

わお…！ つまり、あなたが主を不快にさせたので、主はその怒りを相手から退けられました。あなたが、敵が倒れるのを見て喜んでいるからです。大惨事や逆境を目にして、あなたは喜んだから。イエスが仰ることを思い出します。

「泣く者と共に泣き、喜ぶ者と共に喜びなさい。」(ローマ 12:15 参照)

私たちはそうしません。人々が嘆くと、私たちは喜び、人々が喜ぶと、私たちは嘆く。いやいや、忘れてください。言ってみただけ。では、取り掛かりましょう。準備はいいですか？ 25章 1節。

一エゼキエル 25:1一

次のような主のことばが私にあった。

一エゼキエル 25:2一

「人の子よ。アンモン人に顔を向け、彼らに預言せよ。

これから見ていくモアブやエドムと同様、アンモンもまた、現在のヨルダンにあたる地域です。彼らはイスラエル人とは従兄弟のような関係でした。では、アンモン人から始めましょう。

一エゼキエル 25:3一

あなたはアンモン人に言え。『神である主のことばを聞け。神である主はこう言われる。わたしの聖所が冒されたとき、イスラエルの地が荒れ果てたとき、ユダの家が捕囚となって行ったとき、おまえは、あはは、と言って嘲った。

一エゼキエル 25:4一

それゆえ、わたしはおまえを東の人々に渡して、彼らの所有とする。彼らはおまえのうちに宿営を張り、おまえのうちに住まいをつくり、おまえの産物を食べ、おまえの乳を飲むようになる。

一エゼキエル 25:5一

わたしがラバをらくだの牧場とし、アンモン人の地を羊の檻とするとき、おまえたちは、わたしが主であることを知る。

一エゼキエル 25:6一

まことに、神である主はこう言われる。…

注目してください。

…おまえは手を打ち、足を踏み鳴らし、イスラエルの地を心の底から嘲り、喜んだ。

一エゼキエル 25:7一

それゆえ、わたしはおまえに手を伸ばし、おまえを異邦の民に略奪の対象として与える。わたしは、おまえを諸国の民から断ち切り、国々の間から滅ぼし、根絶やしにする。そのときおまえは、わたしが主であることを知る。』

わお…これが一つ目です。私たちが足蹴にされる側になる 5 つの理由のうち、最初の 1 つです。それは「深い軽蔑/deep disdain」です。ここに現実があります。私たちが侮蔑し、蔑む人たちがいます。深い軽蔑です。興味深いのは、エゼキエルが 6 節で書くように促された詳細です。かなり視覚的ですよ？

(JD:手を打って拍手)(JD:手を叩き、足を踏み鳴らす)ここでリズムをとってもいいですか？ 一(笑)
一 彼らは手を叩き、足を踏み鳴らし、心の中で喜びました。彼らはとても幸せで、喜びに満ちました。なぜか？ 軽蔑のゆえに。軽蔑、この言葉の響きは実際と同じくらい悪に聞こえます。そうでしょ？ disdain/軽蔑 私は…私たちがよく使う単語ではありません。でも、それは悪いです。軽蔑、嫌悪、侮蔑。「あなたは私を軽蔑している。だからあなたは、私が弱ると足蹴にする。だから、あなたは私を非難する。だから、私が苦しんでいるのに、あなたは喜んでいる。」

ところで、「箴言」にあるように、神はそのことを目に留められ、不快に思われます。わお…なんという裁きでしょう。ネタバレですが、これらの近隣諸国への預言はすべて、正確に、極めて精密に実現しました。26 章までたどり着けばわかるでしょう。たどり着きますよ。ああ、信仰の薄い者よ。(マタイ 14:31 参照) 一(笑) 一 8 節。

一エゼキエル 25:8一

神である主はこう言われる。「モアブとセイルは『見よ、ユダの家は異邦の民と変わらない』と言った。

一エゼキエル 25:9一

それゆえ、わたしはモアブの山地の町々、その国の誉れであるベテ・ハ・エンモテ、バアル・メオン、キルヤタイムの町々をことごとく開け放ち、それらはなくなりました。

一エゼキエル 25:10一

アンモン人と一緒に東の人々に渡してその所有とし、国々の間でアンモン人が記憶されないようにする。皆さん今までに…敢えて言いますが、敢えて言えば、ここにいる誰もアンモン人に会ったことはありません。はい、はっきりしておきたくて。

一エゼキエル 25:11一

わたしがモアブにさばきを下すとき、彼らは、わたしが主であることを知る。」

これが 2 つ目の理由です。「深い嫉妬/Jeering jealousy」「ほら！」彼らは嫉妬し、冷やかし、嘲笑しています。「お前たちは私たちよりも劣っている。お前たちは他と同じだ。お前は特別ではない。お前は選ばれていない。お前に起きていることを見てみる。お前の神は、ここにいる他の神々と同じだ。お前は特別な選ばれた国、世代ではない。他の人たちと同じだ。」

これらの預言に共通して織り込まれているのは、この醜い、醜い言葉、「嫉妬」です。嫉妬。深い嫉妬。聞いてください。私は利口ぶるのでありませんが、この 5 つはすべて、同じ文字で始まる 2 つの単語です。少しネタバレしたかったんです。jeering jealousy/深い嫉妬嫉妬は、あなたを嘲笑し始めるために、何かが起こるのをスタンバイして待っています。なぜか？ あなたに嫉妬しているからです。人々が他人を批判するとき、また悲しいことに、このことに関してクリスチャンが最悪になり得ます。言うのは残念で悲しいですけど。彼らが私たちに抱いているのは嫉妬であり、だからこそ私たちが貶めようとし落

ち込んでいるとき足蹴にするのです。なぜなら、彼らがやろうとしていることは、あなたを自分がいるところまで引きずり下ろそうとする事。それが嫉妬がすることです。失礼ながら、もし、このうちのどれが、特に夫婦関係にあるならば、これは非常に深刻です。嫉妬は破壊的です。あなたが嫉妬すると、、、それはたいてい夫の側で、妻を卑下し、切り捨て、見下すような態度で暴言を吐くこともあります。これが根底にあるものです。もし夫が嫉妬に支配されていたら、不安になります。嫉妬の根底に不安があるからです。だから、その不安と嫉妬の中でどうするのかというと、相手を切り捨て、抑え込み、倒れたところを蹴ります。それがモアブとセイルがしたことです。

—エゼキエル 25:12—

神である主はこう言われる。「エドム（エサウの子孫）はユダの家に復讐を企て、復讐を果たして、咎ある者となった。

—エゼキエル 25:13—

それゆえ——神である主はこう言われる——わたしはエドムに手を伸ばし、そこから人も家畜も断って、そこを廃墟にする。テマンからデダンに至るまで人々は剣で倒れる。

—エゼキエル 25:14—

わたしは、わたしの民イスラエルの手によってエドムに復讐する。わたしの怒りと憤りのままに彼らがエドムに事を行うとき、エドムはわたしが復讐するということを知る——神である主のことば。」

これがどういうことなのか分かりますね？

「復讐は主のもの。」（ローマ 12:19 参照）

まるで主がこう言っておられるようです。「ああ、あなたは復讐を果たそうとしているのですね。分かりました。あなたは復讐したいのですか？ わたしがあなたに復讐を見せましょう。復讐はわたしのものだから。」

これが3つ目の理由です。大物です。すべて大物ですが、これは特に。それは私が「執念深い復讐/vindictive vengeance」と呼ぶものです。「ちょっと待ってください。それは同義語ではないのですか？」違います。説明します。復讐とは報復を望むことで「仕返し」、執念深さとは「危害を加える」ことです。例を挙げます。イエスは山上の説教で、ただハードルを上げられたのではなく、ハードルを取り、基本的に投げ捨てられました。「『姦淫してはならない』と言われていたのをあなたがたは聞いています。しかし、わたしは言います。…」姦淫の基準ハードルがなくなりました。

「情欲を抱くだけで、心の中で姦淫を犯したことになる。」（マタイ 5:27,28）

わお…「あなたはすでに、『殺して（murder）はならない』と聞いています。」ただ殺す（kill）のではなく、意図的に人を殺す（murder）ことです。

「…しかし、わたしは言います。もしあなたが憎むなら…」（マタイ 5:21,22）

すぐ、このことについてお話ししますが、ちょっと警告しておきます。「しかし、もしあなたが心の中で、兄弟を憎むなら、あなたは殺人を犯したことになる。」

ハードルを投げ捨てるような話です。それは単に基準を上げるのではなく、排除することです。それから、イエスは言われます。「あなたがたは『目には目を、歯には歯を』と言われていたのを聞いています。」

（マタイ 5:38）

その意味を知っていますか？ 誰かが片目を取るなら、お前の両目取ってやる。「私の歯を1本でもへし折ったら、お前の入れ歯を全部取ってやる。」—（笑）— 元々は、目には目を、は仕返し、それが復讐。

しかし、「復讐はわたしのものと、主は言われる。」執念深さとは違います。執念深さは復讐を超え、「ただ仕返しするだけじゃない。私は1つ上に行く。」「私はあなたに危害を加え、本当に苦しめる。」それが執念深い復讐です。それがエドムがしていたことです。では、なぜ人々は私たちにそのようなことをするのか？ 復讐を果たすためです。彼らは、何か間違っていること、不公平だと認識される何らかの行為を少しでも仕返ししたいのです。彼らは仕返ししたいのです。それを何とされていますか？「腹を立てるな。仕返ししろ。」私は両方します。いえ、しませんよ。ちょっと笑ってくれてありがとう。しかし、それは単なる仕返しではなく、本当に危害を加え、相手を傷つけたいのです。15節。ここまでどうですか？大丈夫ですか？ さらに悪くなりますよ。

—エゼキエル 25:15—

神である主はこう言われる。「ペリシテ人は復讐を企て、心の底から嘲ってひどい復讐をし、いつまでも敵意（昔からの憎しみ）をもって滅ぼそうとした。

「古代からの苦い思い」覚えておいてください。

—エゼキエル 25:16—

それゆえ——神である主はこう言われる——見よ。わたしはペリシテ人に手を伸ばし、クレタ人を断ち切り、海辺の残った者を滅ぼす。

—エゼキエル 25:17—

わたしは激しい憤りで彼らを懲らしめ、彼らに大なる復讐をする。わたしが彼らに復讐するとき、彼らは、わたしが主であることを知る。」

これが4つ目です。私はこれを理由があって「歴史的憎しみ/historic hatred」と呼びます。ヒステリックではありません。ヒストリック/歴史的な。なぜ歴史的なのでしょう？ ペリシテ人とイスラエル人には、歴史があるからです。それはずっと昔に遡ります。また、この文脈で夫婦関係を含むことをお許しください。もしあなたが歴史的な、古くからの苦い思いがあると、長い年月をかけて蓄積された恨み、憎しみ、憤りのようなもので、それはヘブル人への手紙の著者が警告していることで、悲しいことに、残念なことに、私たち自身の危険を顧みず、見過ごされています。ヘブル人への手紙の著者が苦い思いについて述べていることの強さが本当に分かったと、

「苦い根が発芽し芽を出し始めると、それはあなたを汚すことになる。あなたを破壊することになる。」
(ヘブル 12:15 参照)

聖書の中で最も力強いその例のひとつが、アヒトフェルという人物です。彼はダビデの右腕でした。ダビデが最も信頼する助言者でした。ダビデ王は、まずアヒトフェルに相談せずには動くことはありませんでした。アヒトフェルについては、彼が話すとき、神の御告げのようだったと言われています。言い換えれば、彼が話すとき、その助言は神ご自身からのものようでした。(IIサムエル 16:23 参照)

彼が話すとき、それは神の御言葉でした。これがこの男がいかに敬虔だったかです。早送りします。およそ10年と言いたいと思います。これはおおよそその目安に過ぎませんが、様々なことが起きました。ここにいくつか積み重ねられる歴史があります。今や突然、アヒトフェルはアブサロムからの電話やメールや、(現代風にしようとしていますけど) テキストメッセージ待っています。アヒトフェルは、アブサロムが父ダビデに反旗を翻し、ダビデをイスラエル王の座から引きずりおろそうとしていることを知っています。実際に、想像してみてください。彼は自分の父親を殺したいと思っています。彼には、実の妹が義理の兄にレイプされたとき、父親が何もしなかったという苦い思いがあります。(IIサムエル 13)

その苦い思いはただ化膿し、燃え上がり、蓄積され、成長し、長い時間をかけ、その苦い思いは根を張りました。そして、成長し始めます。ああ、彼はただ待ち構えていて、苦い思いと憎しみは、ただその機会を待っています。そして、その機会が訪れます。アヒトフェルは、アブサロムから電話かメールを受け取ります。「君も加わるか?」「ああ、何が起きているか聞いたよ。私は参加する。すべて協力する。」わお、ちょっと待って。アヒトフェル、何があったのですか? あなたはダビデが最も信頼できる助言者ではなかったのですか? 今は苦い思いを抱いている。何があったのですか? おお、それは偶然にもバテ・シェバのこと、ダビデが姦淫を犯したバテ・シェバ。

バテシェバと姦淫した際の妊娠を隠蔽しようとして、彼女の夫ウリヤを戦いの最前線で殺害させました。

(Ⅱサムエル 11 参照)

彼女はアヒトフェルの孫娘でした。お～...ですから、アヒトフェルは怒り狂い、彼が愛していたダビデに対して苦い思いを抱くようになりました。実際に、ダビデは「詩篇」でイスラエルの甘美な詩人として書いています。アヒトフェルがダビデを憎み、苦い思いを抱いたためにダビデを裏切ったとき、ダビデはどれほど傷つき、深く傷ついたかを。もう一度、私は夫婦関係を持ち込まなければなりません。その夫婦関係に苦い思いがあるとすれば、たいていは奥さんの側です。それが根を張り、成長します。男性方、それは時間の問題だと言っておきます。ただ時間の問題です。男性方、奥さんがどういう者か知っていますね。彼女たちは記憶力が良くて...いや、本当です。私の妻は、とても細かいです。妻は、私が妻に対して罪を犯した日の天気を言えます。だって、男性方、私たちは…今まで聞いた中で最高の例えは、バッファローと蝶でした。しばらく使っていなかったのに、今夜使ってみましょう。小石を取ってバッファローの背中に置くと、バッファローは小石がそこにあることに全く気づきません。同じ小石を蝶の羽の上に置くと、蝶は死んでしまい、壊れてしまいます。で、蝶が誰か、バッファローが誰か、分かりますね。男性方がバッファローです。「え?」女性が蝶です。「あなたは本当に私を傷つけたわ。」私たち男は「????」「何のことを話しているんだ?」「本当に傷ついたのよ。」ペテロが書いていることについて考えます。私は今、本当に罪を示されています。先に進みたいのですが、出来ません。ー(笑)ー

いいですか、男性方。夫として、私たちの祈りの生活は… 実際、祈りについて話す予定です。日曜日の「第一ヨハネの手紙」は、祈りについての説教です。私たちの祈りの生活は、妻をどう扱うかで直接影響を受けます。ですから、私たちが理解し、繊細な方法で妻と一緒に暮らさなければ、祈りは妨げられ、天井に跳ね返されます。それはほとんど、祈りの前提条件のようなものです。ですから、夫の皆さん、あなたは何かを祈っているのかもしれませんが、神はその祈りに答えられません。その祈りが妨げられているように思えるのは、それが理由かもしれませんが、だから、ここで私たちはただ...繰り返しますが、私たちはただ理解できません。いいですか? 真剣に、奥さん方、私たち男性にはそれが理解できません。だから私たちは、妻が私たちに話すとき、ただ啞然としたような顔で妻を見るのです。啞然としているから。それが理由です。私たちが理解していません。というのも、私たちは理解しながら暮らしていないからです。つまり、正直になりましょう、男性方。あなたは妻を理解していますか? いいえ、していませんよ。私たちはこんな感じです、「ハニー、ちょっと説明してくれる? 分からないんだ。理解できるように助けて。」「いいえ、あなたが本当に私を愛しているなら、教える必要はないわ。」奥さん方に言うのもいいでしょうか。それって恐ろしいです。そんなことしないでください。あなたは...あなたがたがそんなことをすると、私たちはおしまいです。私たちは普通に知りたいのです。でも、あなたはとても傷ついていて、その小石があなたの翼の上であって、私たち男は「小石なんて見えない」と言います。奥さんは

歴史的に、ヒステリックにもなることはあります。しかし、非常に歴史的で、彼女たちは、何年も前のことを正確に説明できます。彼女たちは、それを決して忘れさせません。少し聞いてください。いいですか？ ここではあまり多くを語らないように注意しなければなりません、彼女たちはそれを持ち出せます。また、思いがけない時にね。そうですね？ 男性方。あなたはちょっと熱くなっている会話の中にいて、それは急速に口論になりつつあって、もちろん、牧師としてはそれを口論とは呼びません。私たちはそれを「激しい交わり」と呼びます。－（笑）－

それで今、私たちは激しい交わりをしていて、突然、私が 25 年前にしたことを彼女が正確に語り、再現していることに私は驚かされます。「そんなに長い間、覚えていたの？ 君は赦してくれたと思っていたよ。僕は君に赦しを求め、君は赦すと言ったじゃないか。僕を赦しているようには思えない。」

「ああ、いや、私は赦しているけど、絶対に忘れないの。あなたにも忘れさせないわよ。」ちょっと待ってください。それも正しくありません。しかし、それがイスラエル人に関してペリシテ人のしたことでした。彼らには歴史がありました。彼らはまさに、イスラエル人の宿敵であったと言えます。

ちなみに、さっと言わせてもらおうと、この言葉を口にするのさえ私には難しいのですが、だから「パレスチナ」と呼ばれるようになったのです。元々はアエリア・カピトリナという名でしたが、それだと長すぎるので、それで、シリア、フェリスティーヤという名に変えました。その後、彼らはそれを「パレスチナ」と翻訳しました。パレスチナ人がいるからではありません。彼らはとっくにいなくなっています。ダビデはパレスチナ人を絶滅させました。ペリシテ人のことで、彼らは絶滅しました。信じるか信じないかは別として、あなたはペリシテ人に会ったことがないでしょう。もういないからです。「私はパレスチナ人がペリシテ人だと思っていたよ。」いいえ、違います。ローマがエルサレムを征服したとき、いつもの慣習で、征服したばかりの都市や奪ったばかりの土地に、その人々の宿敵の名前を付けるのが常でした。イスラエル人の宿敵とは？ ペリシテ人でした。だからローマはそこを「フェリスティーヤ/パレスチナ」と名付けました。だから 1948 年 5 月 14 日まではイスラエルはそう呼ばれていました。ところで、これだけは言わせてください。どうしても胸の内を吐き出したいからです。もしあなたが地図が載っている聖書を持っていて、その地図のひとつに「これはイエスの時代のパレスチナ」だと書かれていたら、パレスチナ人だと思って育った皆さんの中東系の牧師のために、お願いですからこうしてくれませんか？ 私のためにこうしてくれますか？ ドラマチックじゃなくていいので。ただそれを破って、燃やして、それを動画に撮って、事務所に送ってください。－（笑）－ 見てみたいので。とにかく。イエスがここにおられた頃はパレスチナではありませんでした。イスラエルでした。イスラエルと呼ばれなくなったのは紀元 2 世紀になって改名されてからです。

「イスラエルの名がもはや覚えられないようにしよう。」（詩編 83:4 参照）

これがペリシテ人でした。翻訳によっては、「古くからの憎しみ」ではなく、「古代からの苦い思い」と表現する場合があります。どちらが悪いかは分かりません。古代からの苦い思い？ これはただの「苦い思い」なだけじゃなく、「古代からの苦い思い」です。ただの「憎しみ」だけじゃなく、「古くからの憎しみ」です。これは昔からのことです。この憎しみには歴史があります。この苦い思いは、古代からのもの。繰り返しになりますが、共通しているのは、この苦い思いが根を下ろし、成長するのを許されていた期間が長かったことです。今や古いものとなった。古代からのものとなった。今は成熟している。さらに悪いことに、今や、憎しみと苦い思いに満ちた多くの歴史となった。もう許可を得ているか分かりません... 先に進み、本当に厄介な 26 章を終えますが、私の心からあなたの心へこう伝えるまでは、先に進む許可

があるかどうかわかりません。「すべての苦い思いからあなたの心を守りなさい。」苦い思いに関する、興味深い引用があります。苦い思いや恨みを抱いているとき、それがどんなものかわかりますか？ 恨んでいる相手を殺そうと考えることで、それは毒を飲むようなもの。それはあなたを殺します。それはあなたの人生を破壊します。あなたの人生を破壊します。霊的にだけでなく、精神的に、肉体的にも。苦い思いが人に与える打撃を見てください。彼らの顔、表情、性格に現れ始めます。神は知っておられます。私たちはとても恐ろしほどに、素晴らしく造られています。苦い思いは、消化器系、神経系、循環器系、つまり生理学的に、あなたを死に追いやることを神は知っておられます。苦い思いはあなたを殺します。ところで、アヒトフェルの苦い思いの最期はこうでした。その計画が失敗した後、彼がどうするかご存じですか？ 彼は今、アブサロムの相談に乗り、助言しています。しかし、アブサロムにはもう一人、フシャイという男がいました。アヒトフェルがアブサロムに与えた助言に対抗するために神が遣わされた人物です。非常に興味深い記述です。もしアブサロムがアヒトフェルの助言に耳を傾けていたら、ダビデは殺されていたでしょう。しかし、神はそうはさせられませんでした。アブサロムがアヒトフェルの助言を聞かず、彼の助言に従わなかったとき、何が起こったか知っていますか？

彼は自宅に戻り、命を絶ちました。(IIサムエル 17:23 参照)それが苦い思いのすることです。あなたの人生を奪います。それはあなたから人生を奪い、あなたから命を奪います。あなたは意地悪で、苦々しく、批判的になり、批判的な霊を持ち、内側は苦い思いです。心に満ちていることを、口が話します。(マタイ 12:34 参照)

あなたが話すのは、ただ苦い思いだけ。それは、苦味と辛味。今のこの私の声のようにね。－ (笑) － すみません。これで許可が下りました。26章1節。皆さん、まだ大丈夫ですか？ 良かった。他に何と言えます？ － (笑) －

－エゼキエル 26:1－

第十一年の、その月の一日、(これもまた預言的な日時です) 私に次のような主のことばがあった。

－エゼキエル 26:2－

「人の子よ。ツロは...

では、ツロとは誰でしょう？ シドンとツロ。実際には、ツロは現代のレバノンの地域で、私の生まれ故郷です。さて、ツロについてですが、これは来週、私たちがまだここにいるなら、主の御心なら、たぶん2~3の章すべてがツロについてだと思えます。当時、世界で最も繁栄していた国だったことを理解してください。歴史上最も繁栄し、裕福な国だったと主張する人さえいるほどです。なぜか？ 彼らの貿易ルート、立地、そして貿易のすべてが理由です。今夜はそれを少し見ていきます。しかし、ツロも同じことをしました。彼らはイスラエルが倒れている時に足蹴にしました。彼らはバビロン捕囚と包囲、神殿の破壊を喜びました。彼らがエルサレムに対して言ったことに耳を傾けてください。「あはは」その言葉が何なのかは知りませんが、良くないものです。神はそれを好まれません。悪い言葉です。だから、今度あなたが「あはは」と言ったら、それは...とにかく、いや、本当にエルサレムについて、『あはは。国々の民の門は壊され、私に明け渡された。私は豊かになり、エルサレムは廃墟となった』と言った。分かりましたか？ 5つ目の理由です。準備は良いですか？「神を恐れぬ強欲/Godless Greed」強欲です。ああ、強欲は...言い換えると、「ついに彼らが持っていたものを、私たちが手に入れられるのだ。」「私に明け渡された。私は豊かになり、エルサレムは廃墟となった。」

これは... すみません、もう一度謝ります。お許しください。これは誰かが強欲のために、他人の不幸を

利用することです。今、マウイ島で実際にそれを目にしています。言うのは残念ですが、それはただ強欲です。貪欲さです。ですから、誰かが落ち込んでいて、絶望しているところに、あなたが押しかけて来て、その人のものを自分のものにする事。すべては強欲という名目のもとに。私がそれを『神を恐れぬ強欲』と呼ぶ理由は、強欲は神からではないからです。強欲は神のものではありません。

欲のあまり、全世界を手に入れても、自分の魂を失うなら、人は何の益があるでしょう。(マタイ 16:26 参照)

欲は、決して満たされません。飽くことはありません。欲は「もっと欲しい」と言います。あとどれくらい? 「もう少し。」では、もう少し手に入れたら、あとどれくらい欲しいのか? 「もう少しだけ。」もっと、もっと、もっと、…。決して満足しません。決して十分になりません。なぜなら、欲とはその本質からして飽くことがないからです。ツロはすべてを手に入れていたのです。そして今、エルサレム、ユダを欲しがっている。え…、本当に? 私たちは、かつてツロと知られていた言葉にならないほどの繁栄の詳細を具体的に目にしようとしていたのに、しかし、今はもうありません。神が今、ツロに対して裁きを下されるからです。こんにちに至るまで、レバノンに行けば、かつて栄華を誇ったこの壮大な都市の古代遺跡を訪れることができます。これから聖霊によって促されたエゼキエルによる描写を見ていきます。では、これに乗り切りましょう。これを読んでいきます。ご辛抱ください。

—エゼキエル 26:3—

それゆえ——神である主はこう言われる——ツロよ、わたしはおまえを敵とする。海が波をうねらせるように、多くの国々をおまえに向けて攻め上らせる。

—エゼキエル 26:4—

彼らはツロの城壁を荒らし、そのやぐらを壊す。わたしはそのちりを払い去って、そこを裸岩にする。

興味深いです。誰が…統計的確率で…そうやって言います? そう言うことにしておきましょう。これはあり得ないことでした。ある解説者は、エゼキエル 26 章のこの預言が実現する具体的な可能性を実際に計算を行い、何年もかかっただろうと述べています。それは神が言われたとおりに実現したのですが、しかし、当時ツロを見ていたら、「まさか」と言うでしょう。それが岩のようになり、塵となるなんて、あのやぐら(塔)は、あのやぐらは…。そのやぐらを見て、「わお〜!」「わたし(神)はそれを壊す」あなたはその城壁を見て、恐らくバビロンの城壁に似ていたでしょう。その城壁の上で戦車レースが行われたのですよ。まるで4車線のフリーウェイです。H3(フリーウェイ)です。それだけ幅が広がったのです。やりすぎでしたか? ここで皆さんに視覚的なものを提供しようとしています。あなたはツロの城壁を見て、「はっは、これが壊されるって? 見てみたいよ。」そう、見ることになります。

—エゼキエル 26:5—

ツロは海の中の網干し場となる。…

ここで止めます。続けますよ。このままでは間に合わないのは分かっています。大丈夫。こんにち、そこに行くと、かつてあった岩の上に漁網を引いている漁師がいます。それらは自然に形成された岩ではありません。それらは古代ツロの遺跡で、二度と人が住むことはありません。少し先走り過ぎていますが、繰り返しますが、この預言の具体性そのものが、不可能なのです。だからこそ、神は非常に具体的に仰います。「そうすれば、わたしがそれをしたとき、それをしたのがわたしであることを間違いなく示すことができる。」

—エゼキエル 26:5—

...わたしが語ったからだ。——神である主のことば——ツロは諸国の餌食となり、

—エゼキエル 26:6—

それに属する沿岸側の町々も剣で滅ぼされる。そのとき彼らは、わたしが主であることを知る。」

疑問の余地はありません。

—エゼキエル 26:7—

まことに、神である主はこう言われる。「見よ。わたしは、王の王、バビロンの王ネブカドネツアルを、馬、戦車、騎兵、そして大軍勢とともに、北からツロに連れて来る。

まさにそれが起きました。

—エゼキエル 26:8—

彼はその沿岸側の町々を剣で滅ぼし、おまえに向かって壘を築き、…

まさに彼らがしたことです。そのことで知られていました。

…城壁崩しを設け、大盾を立て、

—エゼキエル 26:9—

(ネブカドネツアルは) 破城槌でおまえの城壁を突き崩し、やぐらを斧で打ち壊す。

—エゼキエル 26:10—

彼の馬の数があまりにも多いため、その土煙がおまえをおおう。…

想像してください。馬の数と、馬が蹴り上げる土煙の量だけで、ツロの人々は覆い尽くされてしまう。それが詳細です。いわゆる予知というものは、とても漠然としています。「よし、市場にはこれから調整が入るだろう。」本当に？ いいえ、神はこう言っておられます。「この時間、この分、この秒に、このドル額をペニー単位で調整する。」そして、それ以上に具体的です。だから、それが起きたとき、あなたはこうなります。「わお、こんなことが正確に起こる確率はどれくらいだろう？」ほら、漠然としていれば安全です。言い直せるからです。「わ～！あなたは預言者だ！ 本を書いて～。」違います、これは…「彼らがすることだけでなく、これが彼らがそれをする方法だ。馬をたくさん連れてきて、土煙が舞い上がることまでも教えよう。」かなりの詳細だと思いませんか？

…打ち破られた町に入る者のように、彼がおまえの城門に入るとき、騎兵と車両と戦車の響きに、おまえの城壁は揺れ動く。

—エゼキエル 26:11—

彼は、馬のひづめでおまえの大通りをすべて踏みにじり、剣でおまえの民を殺し、おまえの巨大な石柱も地に倒れる。

12節に注目下さい。

—エゼキエル 26:12—

彼らはおまえの財宝を略奪し、商品をかすめ奪い、城壁を破壊し、住み心地のよい家を打ち壊し、…

想像してみてください。彼らは、特注で豪邸を建てる余裕があっただろうことを。

…石や木や土までも、水の中に投げ込む。

これもかなり詳細です。

—エゼキエル 26:13—

わたしはおまえの騒がしい歌をやめさせる。おまえの豎琴の音も、もう聞かれない。

もう誰も歌いません。今夜はツロでライブ演奏はありません。

—エゼキエル 26:14—

わたしはおまえを裸岩とする。おまえは網干し場となり（また出てきました）、二度と建て直されない。主であるわたしが語ったからだ。——神である主のことば。」

これだけでも。聞いてください。これだけでも。ツロのような場所は、破壊された後、交易路のために必ず再建されるはずだと考えるのが当然でしょう。宝の山です。誰かがやってきて、富と繁栄の可能性があったので、それを手に入れ、再建したはずです。なぜそうしなかったのか？ 神が「二度と建て直されない」と仰ったからです。それが理由です。だから、こんにちそこに行っても、何も再建されていません。なぜか知りたいですか？ 14 節がその理由を語っています。神が「二度と建て直されない」と仰ったからです。

—エゼキエル 26:15—

神である主はツロにこう言われる。「刺された者がうめき、おまえの中で虐殺が行われるとき、おまえが崩れ落ちるその響きに、島々は揺れ動かないだろうか。

考えてみてください。ツロは町の話題の中心でした。それが今、突然破壊されようとしています。冗談でしょ？ 噂はすぐに広まります。人々は驚愕し、仰天しています。「どうしてこんなことが起こり得るのか？」

—エゼキエル 26:16—

海の君主たちはみな、その王座から降り、上着を脱ぎ捨て、あや織りの衣服を脱ぐ。彼らは戦慄を身にまとって地面に座り、おまえのことで絶えず身震いし、啞然とする。

彼らは支配者、王たちです。王としての衣をまとい、王座に着いています。彼らは、王座から離れ、王座から降りてきました。人々はこれを見て、この光景に驚き震え上がります。

—エゼキエル 26:17—

彼らはおまえについて哀歌を唱えて言う。…

ところで、主の御心なら来週 27 章です。私たちがまだここにいるなら。

…海に住む者よ、おまえはどのようにして海から消え失せたのか。その町と住民は海で最も強く、ほめそやされた町であったのに。その町の住民すべてに、恐怖がもたらされた。

つまり、畏敬と恐怖がありました。

—エゼキエル 26:18—

今、島々はおまえが崩れ落ちる日に身震いし、海の島々はおまえの退却を見てうろたえる。」訳すと、「これがツロに起こり得たのなら、私たちにも起こるかもしれない。」

なぜなら、ツロはこのようなことが起こりうるとは、地上で最も考えにくい場所だからです。

—エゼキエル 26:19—

まことに、神である主はこう言われる。「わたしがおまえを廃墟の町とし、住む者のない町々のようにするとき、大水をおまえの上に湧き上がらせ、豊かな水がおまえをおおうとき、

—エゼキエル 26:20—

わたしはおまえを、穴に下った者たちとともに昔の民のもとに下らせ、穴に下った者たちとともに、昔から廃墟であったような地下の国に住ませる。…

…わたしが誉れを与える生ける者の地に、おまえが住めないようにするためだ。

聞いてください。この章と聖書の学びを終える前に、何か得るものがあるとすれば、それはこれです。「神

の子どもたちに手を出してはならない」あなたがそうしたいなら…「彼らは落ち込んでいる。わたしは子どもたちを懲らしめている。見捨てたわけではない。あなたがそれを利用したいのなら、あなたは強欲のあまり、彼らから奪いたい。今、彼らを利用できるから。利用することができるから、あなたは既に持っているものに加えたい。すでに望むものすべてを手に行っているのに。」もしかしたら、これは今夜の誰かのためかもしれません。あなたはツロさんを相手にしている状況にいます。神がすべて見ておられます。

「ああ、彼らは私を利用しています。主よ、、、」「はい、わたしは見ています。」「ええ、でも、彼らはうまく逃げようとしています。」「いいえ、無理です。聞きなさい。あなたは、わたしがすることが今に分かります。最終決定権はわたしにあるからです。」足蹴にする者に関して言えば、足蹴にする者は、あなたを蹴るからです。

—エゼキエル 26:21—

わたしはおまえを恐怖のもととする。おまえはもう存在しなくなり、人がおまえを尋ねても、永久におまえを見つけることはない——神である主のことば。」

わお、これでこの章は終わり、それとともに聖書の学びも終わり、神の民を足蹴にする者たちの最後です。彼らは逃げられません。神はそれに目を留められ、神がそれに最終的な判断を下されます。神がそう言われたら、それで決まりです。最後に一つ。それから締めくくります。今日、ちょうどこのことを考えていました。いろいろな文脈で、度々言っているのは承知していますが、それは、彼らがあなたにしていること、あなたについて言っていることに腹を立てている状態から、彼らを気の毒に思う状態になるようなもので、よく言われるように、最後は、「彼らがあなたに何をしたかではない。イエスがあなたに何をしてくださったかだ。」

最後に一つ。最後の最後の一つですね。出エジプト記でイスラエルの民が、「のどが渴いて死にそうだ」と言ったことを覚えていますか？ 彼らは、マラの水辺にやって来ます。

水を飲もうとしますが、苦いのです。そして民はまた文句を言い始めます。(出エジプト 15:23,24)

モーセは「主よ、私はどうすればいいですか？」神は言われます。「木から枝を取り、それを水の中に入れなさい。」何が言いたいかわかりますね？ それがその苦味を甘さに変えます。(出エジプト 15:26 参照)

その木、枝は十字架の型です。その苦い状況にイエスを招き入れ、あなたがいるその苦い状況に十字架上の完成された御業を招き入れるとき、主だけが苦い状況を甘い状況に変えることができになります。主にしていただきましょう。主に任せてください。彼らがあなたにしていることから目を離し、イエスがあなたのためにしてくださったことに目を向けてください。このような章、そしてこのような聖書の学びを終えるには、これが一番いい終わり方でしょう。

カポノ、上がって来て下さい。皆さんご起立ください。祈りと歌で締めくくります。わあ、まだツロは終わっていません。だから、まだツロを離れようと思わないでください。私がそう言ったからには、皆さん来週来なければなりませんね。とても、とても、とても深いです。来週、主の御心なら、このことについてさらにお話しします。天の御父よ、本当に感謝します。これは、あなたの御言葉の中で、『なぜ私たちの聖書に書かれているのか』の疑問が生じる箇所の一つであり、あなたが私たちに見せたいと望んでおられるものを、私たちがここで理解したときが答えです。主よ、感謝します。それは本当に説明になります。言い訳ではなく、説明で、あなたの民である私たちにこのようなことをする者たちに、あなたが最終的な判断を下してくださることを知り、安らぎと慰めをもたらします。主よ、このようなことをする

人々について祈らなかつたら、私はまた、重大な過ちを犯してしまうでしょう。主よ、もしこれが私たちの間で行われているのなら、主よ、あなただけがお出来になるように、罪を非難するのではなく、私たちに罪を示してください。もし今夜、私たちが目にしたこの5つの理由のうち、どれか1つでも、もしかしたら他の多くの理由も含めて、私たちの生活や夫婦関係に住み着いているとしたら、主よ、あなたがいつも優しくなさるように、そこにあなたの指を置かれ、私たちの心を探り、特定し、知らせてください。「そう、これがそこにあります。取り去る必要があります。」主よ、外科的にそれを取り除いてください。それが私たちから人生を奪う前に、私たちの人生からそれを取り除いてください。主よ、感謝します。主よ、このことで落胆している人たちを励ましてください。もしかしたら、このことをされる側にいるかもしれません。彼らを励まし、力づけ、希望を新たにしてください。主よ、この二つの章を感謝します。イエスの御名によって、アーメン。

メッセージ by JD Farag 牧師カルバリーチャペルカネオヘ

<http://www.calvarychapelkaneohe.com/>

Calvary Chapel Kaneohe 47-525 Kamehameha Hwy. Kaneohe, Hawaii

筆記 hukuinn7